

B-2 : 研究経営・戦略・IR

開催日時・会場 9月20日（木曜日）10:40-12:10 405(4階)

研究IRに基いた研究戦略

国立大学の法人化以降、各大学は自立した大学経営を求められている。その実現のため、大学の事業成果を客観的に評価出来る分析データが、戦略立案のエビデンスとして益々重視されるようになってきている。そこでIRが注目されIR組織が大学内に設立されるようになって来たが、情報分析は教学IRが中心であり、「研究IR」に関してはまだ緒に就いたばかりであるのが現状である。

「研究IR」と一口に言っても、その適用は各大学の実情に応じて大きく異なる。例えば、分析の要となる研究データベースの構築、分析データに立脚したプロジェクトの構築、データの基づく国際共同研究の推進、等々「研究IR」が活用されるステージは様々である。一方で、それら「研究IR」のデータはほとんどが理系に限られており、最近では、人文社会系科学に対する定量的な評価指標についても、その必要性が課題認識されるようになってきている。

本セッションでは、各大学の広範にわたる「研究IR」データを活用した取り組みについて、その実例をご紹介いただく。実際のIRデータを、分析のための分析ではなく、どのように具体的な大学戦略やプロジェクトに結び付けていくのか、そして機能する「研究IR」をどのように推進してゆくのか、そのヒントを共有したい。

オーガナイザー

十津川 剛:

首都大学東京・総合研究推進機構URA室・主幹URA



2017年7月より現職。外部資金獲得支援、研究IR推進、国際連携推進を主に担当し、大学の研究力向上に資する活動に日々取り組んでいます。
早稲田大学教育学部卒。広島大学大学院理学研究科博士課程修了、博士(理学)。九州立ラトガース大学、三菱化学生命科学研究所、九州大学医学研究院にて細胞生物学研究に従事。その後、科学技術振興機構国際科学技術部、東京農工大学URAを経て現職。

講演者



磯部 靖博 : 広島大学・研究企画室・URA

広島大学工学部出身。約10年の大学職員での経験及び弁理士の取得を機に2012年11月からURA業務を始める。山口大学URA室では、研究力分析(論文分析)に従事。2014年4月から広島大学研究企画室(URA本部)において、大学改革関連、大型研究プロジェクト申請及び国際連携業務(EARMA等)に従事。専門は知的財産全般及び生化学。「つなぐこと」を意識し、URA(研究・国際)と弁理士(知財)の融合した研究支援専門職を目指す。



佐藤 智哉 :

金沢大学・先端科学・イノベーション推進機構・URA

カリフォルニア大学サンディエゴ校で哲学のPh.D.を取得後、金沢大学にURAとして赴任。現在は、プレアワード・ポストアワードのサポート業務に加え、研究力分析やIR業務を担当。



野島 秀雄 :

奈良先端科学技術大学院大学・戦略企画本部・特任教授

シャープ株式会社でエンジニアとして約20年の勤務後、スタンフォード大学研究員を経て、韓国サムスン電子に10年間勤務。2014年より現職。サムスン電子では、家電の事業部で初めての外国人役員として研究開発のマネジメントに従事。経営戦略、事業構想およびリーダーシップを現在のテーマとしています。